

和田建設株式会社 環境経営レポート

THE REPORT OF ENVIRONMENTAL MANAGEMENT

2024年

(2024.10.1～2025.9.30)



目 次

環境経営方針	1
事業の概要	2
事業の規模	3
環境経営目標	5
環境経営計画	6
取組状況	7
期中での取組結果	8
環境活動の取組結果と評価	9
環境への負荷への評価と次年度目標	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	11
環境関連法規	12
環境上の緊急対策	13

WADAKENSETSU Co.,Ltd.

(発行日令和8年1月31日)

環境経営方針

基本理念

私たちは、地球環境保護はもっとも重要な社会貢献の一つであると考え、
環境の保全を社員全員の共有する価値観とし、毎日の事業活動を通じて、
社会資本整備と環境保護が共に成り立つ循環型社会の実現に取り組みます。

行動指針

- 1 法規制の遵守はもとより、環境問題の未然防止に努めます。
- 2 環境や自然を大切にする企業風土を醸成します。
- 3 資源とエネルギーの有限性に鑑み、使用する資源の最小化に努めます。
- 4 環境負荷低減を可能にする工法や商品開発を推進します。
- 5 地域、社会や自然との共生に積極的に努めます。
- 6 事務用品や建設資材等のグリーン購入に努めます。
- 7 環境経営の継続的改善に努めます。



改訂日 令和3年3月31日
和田建設株式会社
代表取締役 鈴木美奈子

事業の概要

名 称

和田建設株式会社

代表者の氏名

代表取締役 鈴木 美奈子

所 在 地

本社 〒417-0061 静岡県富士市伝法3110番地の1

電話 0545-52-1711

FAX 0545-52-6939

E-mail info@wadaken.co.jp

資材置場

設 立

昭 和 48 年 4 月 1 日

資 本 金

1,000万円

事業分野

河川、道路、橋梁、下水道工事など社会基盤の整備

プラントメンテナンス、マテリアルハンドリング等の工場環境、生産環境の整備

機械基礎、機械設置工事

◆ 建設業許可 静岡県知事許可第001876号

許可業種 土木工事／建築工事／塗装工事／舗装工事

機械器具設置工事／管工事／とび・土工工事／解体工事

防水工事／屋根工事

◆ 産業廃棄物収集運搬業許可(02201179376)

収集運搬(積替え及び保管行為を除く)

産業廃棄物の種類 廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コン
クリートくず及び陶磁器くず、がれき類、紙くず、木く
ず、繊維くず

※自社運搬のみ

従 業 員 数

6 名

環境管理責任者

鈴木 美奈子

エコアクション担当者

秋山 有理

電話 0545-52-1711

E-mail y_akiyama@wadaken.co.jp

事業の規模

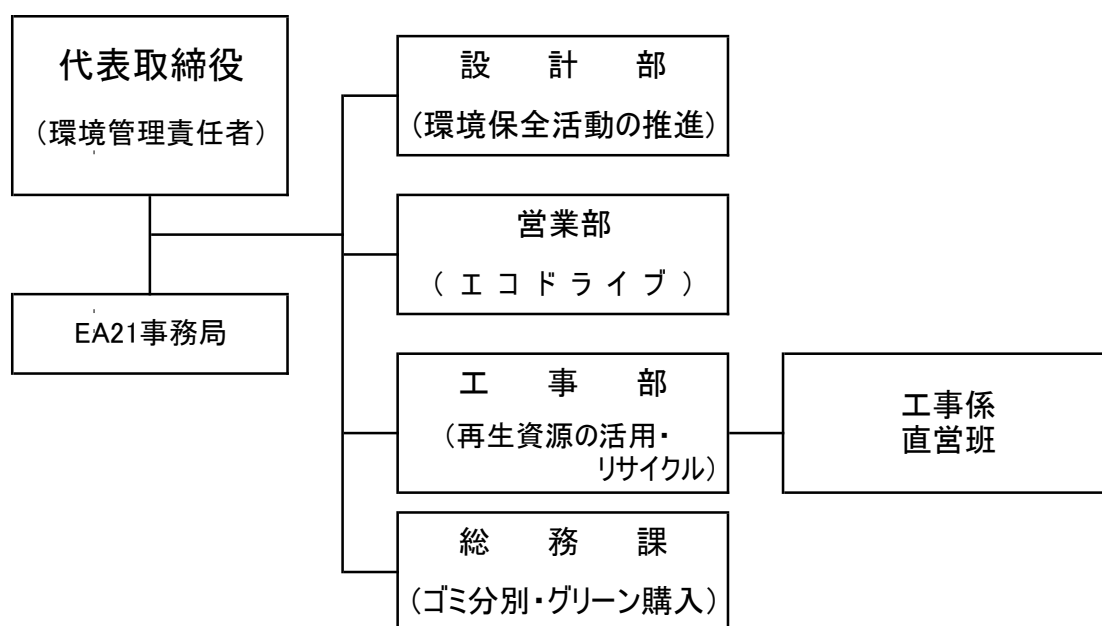
活動規模	単位	51 期	52 期	53 期
		2022.10～'23.09	2023.10～'24.09	2024.10～'25.09
工事の件数	件	209	180	174
売上高	百万円	239	194	164
従業員	人	7	6	6
事務所床面積	m2	336	336	336
倉庫床面積	m2	40	40	40
資機材床面積	m2	528	528	528

認証・登録の対象範囲

活動 : 土木工事業・建築工事業・塗装工事業・舗装工事業・機械器具設置工事業・管工事業・とび・土工工事業・解体工事業・屋根工事業・防水工事業

対象事業所：本社 資材置き場

和田建設株式会社 組織図および実施体制



<環境管理組織における機能>

経営責任者

- ① 環境経営全般に対する責任と権限
- ② 環境方針の作成と社員への周知
- ③ 実施体制の構築
- ④ 全体の評価と見直し
- ⑤ 経営の課題とチャンスの明確化

環境管理責任者

- ① 環境経営活動の推進
- ② 環境経営目標及び環境経営計画の作成
- ③ 環境経営推進会議の実施
- ④ 経営者への進捗報告

EA-21活動事務局

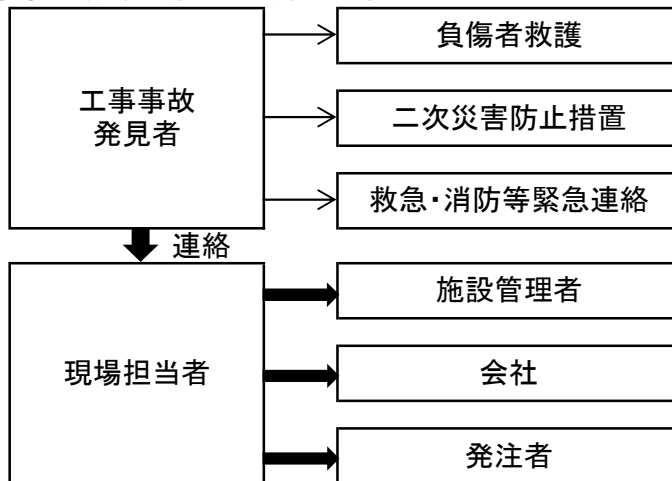
- ① 各部門のデータのまとめ
- ② 環境経営計画の予実績管理
- ③ 環境負荷・環境への取組みの自己チェックの実施
- ④ 環境管理責任者補佐
- ⑤ 環境関連法規等最新版管理
- ⑥ 文書・記録の管理

各部門

- ① 環境経営計画の実施
- ② 月別部門データの集計・報告
- ③ 問題点の把握と是正の実施
- ④ 推進会議の出席
- ⑤ 従業員教育

緊急時の体制

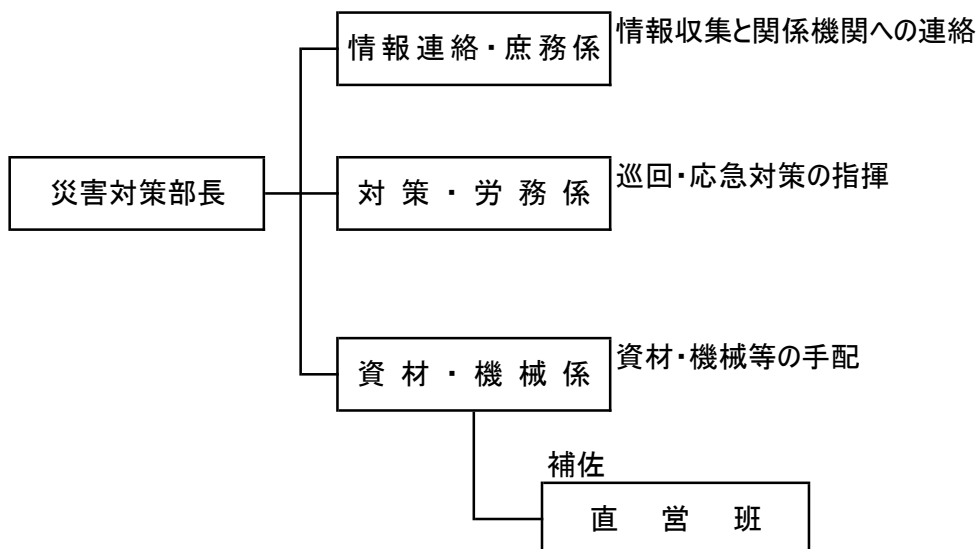
工事事故(火災・漏水など)発生時の対応



大雨、出水、強風、地震時の対応

大雨、出水、強風、地震などの異常気象で、災害発生のおそれのある場合は、下記の組織体制で必要に応じて現場内をパトロールし、警戒に当たる。

また、現場内において事故発生、またはその恐れのある場合も同様の組織で対応する。



緊急事態手順の確認

各工事現場においては、施工計画書に記述して、その手順を確認すること。

油漏れ事故想定訓練

安全大会に合わせ、油漏れ事故を想定した対応訓練をする。

ENVIRONMENTAL TARGET 環境経営目標

環境目標

		単位	基準値	2026年～2028年	備考
			2023年	目 標	
事業所	温室効果ガス排出量	kg-CO2	3,824	3,800	
	購入電力	kWh	2,632	2,600	
	太陽光発電量	kWh	5,742	(参考数値) 5,474	年間想定発電量を目標値とする
	太陽光発電売電量	kWh	1,877	2,300	
	LPG使用量	kg	132	現状維持 実績把握	
	水使用量	m3	202	現状維持 実績把握	
	廃棄物一般	可燃ごみ	kg	現状維持 実績把握	
		資源ごみ	kg	現状維持 実績把握	
		再資源化量率	%	現状維持 実績把握	
	乗用	ガソリン使用量	L	現状維持 実績把握	
		平均燃費	km/L	15	16
現場	ガソリン使用量	L	1,998	現状維持 実績把握	
	軽油使用量	L	1,415	現状維持 実績把握	
	ガソリン車平均燃費	km/L	12	12	
	軽油車平均燃費	km/L	9	9	
	産業廃棄物(混廃)	t	2	現状維持 実績把握	

※電力は東京電力調整後排出係数0.376kg-co2(2022年)による。

(基準値は、2019年の排出係数で再計算した値)

※社用車平均燃費においては2011年の参考数値を基準とする目標とする。

環境経営計画

(年間通しての取り組み)

責任者: 鈴木 美奈子/秋山 有理

項	目	担当者
① 二酸化炭素排出(燃料・電気)の低減		
全車両のエコドライブの周知	全 社 員	
低排気車両の購入の検討		
遮光・断熱化対策		
蓄電池システムの導入		
エアコンの設定温度を夏28℃冬20℃に設定		
クールビズ・ウォームビズの推奨		
消灯の徹底		
省エネ重機の使用		
② 水使用量の低減		
事務所での節水	全 社 員	
水漏れ点検の実施		
③ 廃棄物排出量の低減		
コピー用紙の両面使用	全 社 員	
業務連絡に電子メールの利用など、ペーパーレスに努める		
仮設資材を整理整頓して、購入を控える		
建設副産物の分別化		
④ リサイクル推進		
ダンボール、雑誌等紙類のリサイクル	全 社 員	
ペットボトル、瓶、缶等飲料容器のリサイクル		
⑤ グリーン購入の推奨		
従来と値段が一緒ならばグリーン購入に乗り換える	全 社 員	
リユース製品の購入		
⑥ リサイクル商品の開発と販路拡大		
リサイクル可能な資材の使用を推進	全 社 員	
瓦再生砕石の使用を提案・推進		
⑦ 環境配慮工事提案		
環境に配慮した施工を提案	全 社 員	
コスト削減につながる施工を提案		
⑧ 地域の環境活動への参加		
地域の環境活動へ積極的に参加する	全 社 員	

取組状況

項 目	評価	評 価 内 容	今後の取組
① 二酸化炭素排出(燃料・電気)の低減			
全車両のエコドライブの周知	○	各ドライバーの前年度平均燃費を確認	継続実施
低排気車両の購入の検討	○	ガソリン車を一台、ハイブリッド車に入れ替えた	継続実施
空調設定温度 夏28℃冬20℃	○	徹底されている	継続実施
クールビズ・ウォームビズの推奨	○	全社員に説明	継続実施
消灯の徹底	○	消灯を促すシールを貼る 担当者から全社員に説明	継続実施
省エネ重機の使用	○	省エネ重機をリースするよう、全社員に説明	継続実施
蓄電池の導入	○	蓄電池を導入し活用	継続実施
② 水使用量の低減			
事務所での節水	○	徹底されている	継続実施
水漏れ点検の実施	○	徹底されている	継続実施
③ 廃棄物排出量の低減			
コピー用紙の両面使用	○	徹底されている	継続実施
業務連絡のペーパーレス化	○	業務連絡は電子メールまたは口頭で	継続実施
仮設資材を整理整頓して、購入を控える	○	担当者から全社員に説明	継続実施
建設副産物の分別化	○	担当者から全社員に説明	継続実施
④ リサイクル推進			
ダンボール、雑誌等紙類のリサイクル	△	徹底されているが、排出量を把握しきれなかった	継続実施
ペットボトル、瓶、缶等飲料容器のリサイクル	△	徹底されているが、排出量を把握しきれなかった	継続実施
⑤ リサイクル商品の開発と販路拡大			
リサイクル可能な資材の使用を推進	○	徹底されている	継続実施
瓦再生砕石の販売	○	所属する協同組合により「ウインセラミコ」の販売を促進	継続実施
⑥ 環境配慮工事提案			
環境に配慮した施工を提案	○	低騒音・低振動型重機の利用	継続実施
コスト削減につながる施工を提案	○	工期短縮などにより、省エネ・廃棄物の減量などにつなげた	継続実施
⑦ 地域の環境活動への参加			
地域の環境活動へ積極的に参加する	○	紙類は就業継続支援B型事業所へ、空き缶は魼の稚魚を放流するためのボランティアに寄付。 富士市環境エネルギー推進協議会員	継続実施

期中での取組結果

前期達成状況 2024/10～2025/3

		単位	前期	基準年 2023/10～ 2024/3	目標数値	実績%	評価是正		
事業所	購入電力		kWh	1,855.0	1,316.0	1,300	42.7%	×	冬季でエアコン使用量増加
	太陽光発電量		kWh	2,435.0	2,871.0	(参考数値) 2,737			継続
	太陽光発電売電量		kWh	490.0	938.5	1,150	-57.4%	×	電力使用量増加で売電に回らない
	LPG使用量		kg	111.0	66.2	現状維持 実績把握		×	冬季でガストープ使用
	水使用量		m3	104.0	101.0	現状維持 実績把握		×	従業員に節水を周知
	廃棄物一般	可燃ごみ	kg	41.0	42.1	現状維持 実績把握		○	継続
		資源ごみ	kg	4.0	4.6	現状維持 実績把握		○	継続
		再資源化率 (可燃ごみは熱回収による)	%	100.0	100.0	現状維持 実績把握		○	継続
	乗用	ガソリン使用量	L	612.0	488.3	現状維持 実績把握		×	従業員にエコドライブを周知
平均燃費		km/L	11.57	7.3	16	-27.7%	×	従業員にエコドライブを周知	
現場	ガソリン使用量		L	999.0	998.9	現状維持 実績把握		×	従業員にエコドライブを周知
	軽油使用量		L	694.0	707.3	現状維持 実績把握		○	継続
	ガソリン車平均燃費		km/L	12.4	6.2	12	2.9%	○	継続
	軽油車平均燃費		km/L	9.0	4.3	9.0	0.1%	○	継続
	産業廃棄物(混廃)		t	0.6	1.2	現状維持 実績把握		○	継続

(数値目標未設定の項目については、基準年と比較↑)

CO2排出量換算表

※電力は東京電力調整後排出係数0.376kg-co2(2022年)による。

		実 績	目 標	参考 (前年度実績)
事業所	購入電力	697	495	2,011
	太陽光発電量	▲ 916	▲ 1,079	▲ 768
	太陽光発電売電量	▲ 184	▲ 353	▲ 179
	ガソリン使用量	1,420	1,133	2,478
	LPG使用量	333	199	373
	計(kg-CO2)	2,450	1,826	
		624 kg-CO2 (目標未達成)		
現場	ガソリン使用量	2,318	2,318	8,604
	軽油使用量	1,791	1,825	4,166
	計(kg-CO2)	4,108	4,142	
		▲ 34 kg-CO2 (目標達成)		

取組結果

環境活動の取組結果

		単位	今年度実績 2025年	目標数値	実績%	達成	参考 (前年度実績)	
事業所	購入電力		kWh	2,593.0	2,600	-0.3%	○	2,632.0
	太陽光発電量		kWh	6,098.0	(参考数値) 5,474			5,742.0
	太陽光発電売電量		kWh	1,860.0	2,300	-19.1%	×	1,877.0
	LPG使用量		kg	147.0	現状維持 実績把握		×	132.5
	水使用量		m3	214.0	現状維持 実績把握		×	202.0
	廃棄物一般	可燃ごみ	kg	73.7	現状維持 実績把握		○	84.1
		資源ごみ	kg	8.7	現状維持 実績把握		○	9.2
		再資源化率 (可燃ごみは熱回収による)	%	100.0	現状維持 実績把握		○	100.0
	乗用	ガソリン使用量	L	1,028.4	現状維持 実績把握		×	976.6
		平均燃費	km/L	12.60	16	-21.3%	×	14.5
現場	ガソリン使用量		L	1,759.6	現状維持 実績把握		○	1,997.9
	軽油使用量		L	1,323.1	現状維持 実績把握		○	1,414.6
	ガソリン車平均燃費		km/L	13.2	12	10.0%	○	12.3
	軽油車平均燃費		km/L	8.0	9.0	-11.1%	×	8.5
	産業廃棄物(混廃)		t	1.3	現状維持 実績把握		○	2.3

(数値目標未設定の項目については、前年度と比較↑)

CO2排出量換算表

※電力は東京電力調整後排出係数0.376kg-co2(2022年)による。

		実 績	目 標	参考 (前年度実績)
事業所	購入電力	975	990	2,011
	太陽光発電量	▲ 2,293	▲ 2,159	▲ 768
	太陽光発電売電量	▲ 699	▲ 706	▲ 179
	ガソリン使用量	2,386	2,266	2,478
	LPG使用量	441	397	373
	計(kg-CO2)	3,802	3,653	
現場		149 kg-CO2 (目標未達成)		
	ガソリン使用量	4,082	4,635	8,604
	軽油使用量	3,414	3,650	4,166
	計(kg-CO2)	7,496	8,285	
		▲ 789 kg-CO2 (目標達成)		

環境への負荷の評価と次年度の目標

評 価

太陽光発電売電量	原因	太陽光で発電した電力の売電分を使用分が上回った。
	是正	購入電力量は減っているのですが、太陽光発電と蓄電池のシステムがバランスよく機能していると判断できる。全体的な使用量を削減する必要はあるが、特に是正すべき問題はないと考える。
LPG使用量	原因	冬季のガスストーブの使用量が増加した。
	是正	年によって気候の差があり、対策は難しいが、温度調整が利くエアコンを上手く併用してなるべく使用量を増やさないようにしたい。
事務所用乗用車 平均燃費	原因	エコカーの特性を生かし切れていない。
	是正	エコカーの特性を生かしたエコドライブを習得する。

次年度の環境経営目標

		単位	基準値 2023年	2026年～2028年 目 標	備考
事業所	温室効果ガス排出量	kg-co2	3,824	3,800	
	購入電力	kWh	2,632	2,600	
	太陽光発電量	kWh	5,742	(参考数値) 5,474	年間想定発電量 を目標値とする
	太陽光発電売電量	kWh	1,877	2,000	
	LPG使用量	kg	133	現状維持 実績把握	
	水使用量	m3	202	現状維持 実績把握	
	一般廃棄物 再資源化量率	%	100	現状維持 実績把握	
	乗用 ガソリン使用量	L	977	現状維持 実績把握	
	平均燃費	km/L	15	15	
現場	ガソリン使用量	L	1,998	現状維持 実績把握	
	軽油使用量	L	1,415	現状維持 実績把握	
	ガソリン車平均燃費	km/L	12	13	
	軽油車平均燃費	km/L	9	8	
	産業廃棄物(混廃)	t	2	現状維持 実績把握	

代表者による全体の評価と見直し・指示

見直し 関連情報	項 目		チェック	評 価
	1	環境活動の記録	■	記録文書として作成しました。
	2	環境目標及び目標達成状況	■	ほぼ、目標数値をクリアすることができました。来年度も継続して取り組みます。
	3	環境活動計画及び取組実施状況	■	今後も継続して取り組みます。
	4	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	■	環境活動報告書に記載の通りです。
	5	外部コミュニケーション・対応記録	■	本年は外部からの苦情はありませんでした。
	6	取引先、業界、関係行政機関その他外部動向	■	特にありませんでした。

代表者による
全体評価・見直し指示

事業所	今年度、太陽光発電量に対し、売電量が減少したが、購入電力も減少しており、太陽光発電と蓄電のシステムがバランスよく機能していると考えられる。このまま使用電力量が、太陽光で発電した電気の方が比重が大きくなるような状態を維持していきたい。一方で、LPGの使用量が前年度より多くなっている。原因は冬のガスストーブだと思うが、年によって気温差があるので対策が難しいが、温度の調整が利き、排出係数が低いエアコンを併用することで、上手く削減できるようにしたい。 ガソリンの使用量燃費とも前年度より悪くなっている。エコカーの性能が生かし切れていないと思われる。改めてエコドライブを心がけるよう周知していきたい。		
現場	今年度は、ガソリン・軽油の使用量が昨年度より減り、CO₂排出量について目標値より789kg-CO₂削減できたが、ガソリン車はエコカーを使用していることもあり、燃費の目標数値を上回ったが、軽油使用車の燃費はわずかに落ちることとなった。これからもエコドライブを心がけるよう周知していきたい。 具体的な目標にはないが、工事内容についても引き続き、環境に配慮した工法や材料・重機の使用などを提案し、理解を求めるように心がけてもらいたい。		
見直し項目		変更の 必要性	有の場合の指示事項等
1	環境方針	無	
2	環境目標	無	
3	環境活動計画	無	
4	環境に関する組織	無	
5	その他のシステム要素	無	
6	その他(外部への対応)	無	

令和8年1月31日

和田建設株式会社

代表取締役 鈴木 美奈子

環境関連法規

1.環境関連法規の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守事項を確認した結果、違反はありませんでした。

	主要な法律等	適用内容または規制基準値	遵守項目	遵守状況確認	
	地球温暖化対策の推進に関する法律	事業者の責務	温室効果ガス排出の抑制に努める	○	2025/9/30
	グリーン購入法	事業者の責務	環境物品の購入	○	2025/9/30
	富士市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	事業者の責務	廃棄物の発生を抑制し、及び再利用を促進することにより廃棄物の減量を推進するとともに、廃棄物を適正に処理し、循環型社会の形成と生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る	○	2025/9/30
事業	建築基準法	内装仕上げ・換気設備及び天井裏等の工事	石綿含有建材の使用禁止	○	2025/9/30
			クロホル素添加建材の使用禁止	○	
			ホルムアルデヒドに関する規制	○	
	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物	処分事業所との委託契約	○	2025/9/30
			①マニフェストの交付	○	
			②回収・照合（発行後B2,D票90日E票180日以内）		
			③保管(5年間)		
			マニフェスト交付状況報告（毎年6月30日までに）	○	
			保管場所の掲示	○	
		多量排出事業者	計画書及び実施報告書の提出	該当せず	毎年6月30日までに提出
野外焼却の禁止			○	2025/9/30	
関連	静岡県条例（産業廃棄物の適正な処理に関する条例）	処分業者の実地確認等	処分場の定期的な視察	○	1回／年以上
	建設工事に係る資材の再資源化に関する法律	建築物の解体	発注者への説明	○	2025/9/30
			都道府県知事への届け出（工事着手する日の7日前まで）	○	
			分別解体等	○	
			再資源化等の促進	○	
再生資源の使用			○		
連	騒音規制法	特定建設作業・適用指定地域	規制地域での規制の遵守	○	2025/9/30
	振動規制法	特定建設作業・適用指定地域	規制地域での規制の遵守	○	2025/9/30
	建設業法	建設業許可と更新	許可と5年ごとの更新	○	2025/9/30
	上下水道法	管工事業者許可と更新	許可と5年ごとの更新	○	2025/9/30
		施工基準	遵守と届出	○	2025/9/30
	道路法・河川法	施工基準	遵守と届出	○	2025/9/30
	消防法	保管数量の管理	第1石油類(ガソリン)36Lまで	○	2025/9/30
ジャコ構内作業規定	公害防止・環境保全の義務	騒音・悪臭・振動・排水等による公害防止及び環境事故の防止	○	2025/9/30	

※毎年見直すものとする

2.違反・訴訟の有無

過去3年間、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

作成者 秋山 有理



確認・承認者 鈴木 美奈



環境上の緊急対策

想定される緊急事態	原因	対応策
建設現場からの出火	溶接の火花による引火	・現場の整理整頓 ・消火器の設置 ・火気監視人を置く ・連絡体制の明確化 ・定期訓練の実施
手順	①発見者は大声で皆に知らせる ②責任者へ通報を依頼する ③身の安全を確保し、初期消火に努める ④ジャトコ構内安全基準に沿って担当部署に報告する	

訓練記録

訓練日	想定される緊急時の状況	原因	対処・訓練等
令和7年9月25日（木）	建設現場からの出火	溶接の火花による引火	・整理整頓の確認 ・消火器を現場に設置する
参加者	全社員		
対応手順	①発見者は大声で皆に知らせる ②責任者へ通報を依頼する ③身の安全を確保し、初期消火に努める(消火器を使った消防訓練) ④ジャトコ構内安全基準に沿って担当部署に報告することを確認		
評価	出火したことを想定して、上記の対応手順を確認し、その内容の適否を確認した。対応策の手順に従って確認したが、特に問題はなかった。今回の訓練では改めて手順の策定や改訂の必要性はないと判断した。		

環境コミュニケーション受付表

	情報 入手日	情報 種類	通報者	通報 方法	住所 連絡先	内容	回答の 必要性	対応内容 (再発防止策)
1		対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要 ・ 不要	
2		対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要 ・ 不要	
3		対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要 ・ 不要	
4		対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要 ・ 不要	
5		対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要 ・ 不要	
6		対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要 ・ 不要	
7		対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要 ・ 不要	
8		対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要 ・ 不要	
9		対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要 ・ 不要	
10		対策 ・ 苦情		電話 ・ メール ・ ()			必要 ・ 不要	

※ 2024年10月1日 ～ 2025年9月30日 の期間に苦情はありませんでした。

産業廃棄物処分場実地確認

実地確認の実施年月日		令和7年9月30日（火）
実地確認先	事業者名	三和興産株式会社
	住所	静岡県富士市依田橋322-1
実地確認を行った者		木内 賢太郎
実地確認の結果の評価 （委託契約の適否等）		適合

